

新潟国際情報大学
中期計画Ⅱ（2020～2024年）

令和3（2021）年度報告書

令和4年3月

2019 年度に作成された「新潟国際情報大学 中期計画Ⅱ（2020～2024 年）」（以下、中期計画Ⅱと表記）の下、FD・中期計画推進委員会は 2020 年度に本計画の PDCA を確実に実施するべく、進捗報告・検証の仕組みを構築した。中期計画Ⅱ2 年目である本年度は昨年度課題とされた点の進捗を確認し、本計画後半の目標達成につなげていくことを目的とする。

1. 地域社会のあり方を創造できる人材育成

1－1. カリキュラムポリシーやディプロマポリシーに則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学生の求める付加価値を最大化させる

2023 年度のカリキュラム改定へ向け、昨年度に引き続き活動のポイントは順調に着手されている。特に「学修成果を保証するための仕組み」については、GPS-Academic テストを 2021 年度導入し、学修成果の可視化を実現した。

1－2. 地域と一体化した教育の実践

学外との連携が必要となる取り組みであり、コロナ禍においては着手の困難な項目が多いが、オンラインでできる活動を中心に計画が進められている。

1－3. 総合的な人間力を涵養するための試み

2023 年度のカリキュラム改定もにらみながら、科目の統廃合や新設の議論が進められている。

1－4. 学生が主体的に参加する教育の実践

キャリア教育関連、ファシリテーション教育関連を中心に活動が進められている。今後は FD 研修会等も活用しながら、学生の教育活動参画とそのための授業改善を進めていく。

2. 世界に通用し、世界に発信する研究と教育

2－1. SDGs の推進

シラバスに SDGs のへ目標のチェック欄が設けられるなど、SDGs の推進へ向けて着実な活動が行われている。フェアトレード大学認定へ向けて、総務課が管理する教職員用のコーヒーにフェアトレードコーヒーが導入されるなど、着実な活動が行われている。

2－2. 留学制度の拡充、留学生受入強化、「留学の NUIS」

コロナ禍のため、計画を進めることが困難である。

2－3. 研究活動シーズの把握と公開、研究成果の開放、研究内容の発信、教育内容や知的財産の地域への還元

昨年度課題としてあげられた研究者総覧の改訂がされた。ニーズ調査については、2021 年 3 月に企業説明会参加企業に実施した意識調査に引き続き、調査を進めていく。市民教育の強化についてはコロナ禍で計画推進が困難な部分も多いが、ハイブリッド型の講座はコロナ禍以降も来場の難しい受講者の参加につながる取り組みとして期待される。

2－4. 外部研究教育資金獲得の強化

昨年度に引き続き情報収集・情報共有が実施されていることに加えて、今年度は新たに採択経験者による講演などの応募支援が実施された。

3. 個性を伸ばす教育環境の整備—すべての学生を応援する大学

3－1. 快適で創造的な学習環境

全学年のノート PC 必携化実現に伴い、パソコン教室やなび広場の設備変更が行われた。今後は無線 LAN の整備等、現状に合わせた環境整備を進めることになる。図書館については、新たに始まった取り組みが入館者数、貸出冊数の増加につながっており、増床新築等さらなる機能拡充による学習環境の充実に努めたい。

3－2. すべての学生に行き届いた学生支援

成績不振等によるフォロー対象学生への対応を中心にきめ細やかな学生支援を行っている。学生と教員の距離が近いという本学の好評はこうした地道な支援活動の賜物であろう。

3－3. 「やる気応援」のさまざまな仕組み（奨学金制度の充実）

新規の奨学金制度導入の検討など順調に進んでいる。同窓生の寄付による制度については今後の検討課題である。

3－4. 卒業後の長期的キャリアを考える就職支援と共に、卒業後も集いやすい大学を目指す（卒業生とのネットワークの確立）

昨年度に引き続き情報収集が行われた。中期に留まらず長期に及ぶ施策であり、具体的に何ができるのか地に足の着いた議論が必要である。

3－5. 全学が連携をしたカリキュラム支援

コロナ禍で活動が困難な中、キャリア支援課を中心とした活動は新規事業も含め着実に進められている。しかし、昨年度課題とされた FD 活動を通じたキャリア支援教育は今年も実施されなかった。次年度以降は FD 活動の柱の一つとして本格的な活動を期待したい。

4. 入学者選抜試験方法の見直しと募集活動の強化

4－1. 様々な学生の確保と多様な入学者選抜のための制度の検討

文部科学省主導の 2021 年度の入試制度の変更の他、学内では 2023 年度入学者選抜の総合型選抜の導入が控えている。受験生や在学生の動向を踏まえて引き続き検討を行う。

4－2. 社会人受入の強化

社会人受入れに向けた活動については、本格的な検討は行われていないというのが実状であろう。本格導入を目指すのであれば、長期的な視点に立った全学的な議論が必要である。

4－3. 大学のアドミッションポリシーとデータに基づいた募集活動の再構築

数年来の本学の受験者数に鑑みれば、募集活動は一定の成果が出ていると言えるだろう。今後は、近年の受験者層の変化やコロナ禍明けの受験動向を踏まえた分析と募集活動が必要である。

4-4. 高校生及びその保護者などの目線に立った戦略的広報と安定的志願者の確保

4-3と同様、これまでの活動に加えて、今後の受験動向を先取りした対策の検討と活動が課題である。

5. 持続可能で安定した大学経営

5-1. ガバナンスの強化

認証評価の実地調査が行われ、本学のガバナンスに関する評価を得た。昨年度課題とされた理事・評議員の出席率向上に向けて、2022年度の開催日程の配布、確認が行われた。

5-2. 安定した財政基盤の構築

計画通り安定した学生納付金収入を確保している他、補助金等も一定の収入を確保した。また、昨年度は改革総合支援事業（タイプ1）の選定に至らなかったが、今年度は前年度の課題の見直しを行い、選定ライン（73点）をクリアし選定に至った。引き続き、取組みの充実が期待される。

今後の課題として、学生納付金の見直しも検討が望まれる。

【総括所見】

昨年度、中期計画の報告書が作成されたことで、各委員会、各部署において中期計画推進の意識づけがなされた成果が現れている。昨年度課題とされた事項に関して、解決へ向けて着手、実行されたものも少なくない。また特に、地域連携委員会を中心としたSDGs活動は、教授会においても頻繁に進捗が報告され、本計画の牽引役として活躍した。しかし一方で、実現の困難な項目や進捗が滞っている項目も浮き彫りとなった。次年度から委員会が再編成され、新しいメンバーで中期計画推進が図られることになる。順調に進んでいる計画は更なる推進を、そうでない項目は新委員会による再検討と立て直しを期待したい。

マスタープラン 総括評価

	マスタープラン	評価	備考
1	地域社会のあり方を創造できる人材育成	順調	
2	世界に通用し、世界に発信する研究と教育	順調	
3	個性を伸ばす教育環境の整備—すべての学生を応援する大学	順調	
4	入学者選抜試験方法の見直しと募集活動の強化	概ね順調	
5	持続可能で安定した大学経営	順調	

(備考) 評価欄は「順調」、「概ね順調」、「遅れている」の中から選択した。

その他補足があれば、備考欄に記入した。